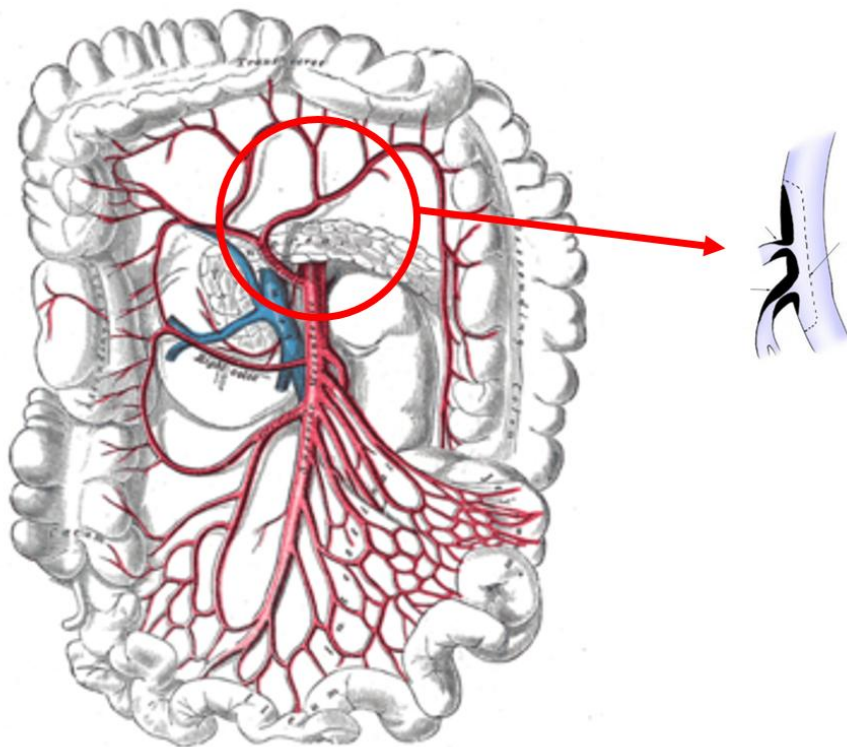


腹部アンギーナとは

腹部アンギーナは、腹部の動脈が狭くなることにより、食後の腹痛、体重減少、嘔気などが起こる病気です。



● 原因は

食事によって消化管の血流は増えますが、胃腸の動脈が狭くなっていると、血流不全に陥り、症状を起こします。原因としては、

- 動脈硬化
- 血管炎
- 動脈の圧迫
(腹腔動脈起始部圧迫症候群など)
- 動脈の線維筋性肥厚
- 動脈解離

などがあります。また、血圧降下薬・経口避妊薬・ジギタリスという心不全の薬といった薬剤による影響で引き起こされます。

● 症状は

- 食後 15 - 30 分に腹痛、嘔気を繰り返すことが特徴です。
- 便秘障害や体重減少を伴うことがあります。
- 小腸における吸収不全により栄養状態が悪化することがあります。
- 血便が発生したり、また大量に出血する恐れがあります。
- 激しい腹痛、吐き気や発熱、嘔吐を繰り返すようになり、ショック状態に陥る可能性があるため注意が必要です。



● 診断は

診断は超音波、CT、MRI、血管造影により行います。腹部に血管雑音を聴取することがあります。



● 治療は

治療法には、血管内治療と血行再建術などの手術があります。

